

# 鴨長明の方丈記から

●特に今につながる所



2009年10月25日第1回まるごと市

## この2年間をどう過ごしてきたか

「人が集まる場」を目指して2009年6月にオープンしたまるごと館でしたが、2020年4月5月以降コロナ禍で、それまで取り組んでいたことがほぼ出来なくなりました。私は落ち着かなくとても不安でした。そんな時でも、オカリナ、絵手紙、八幡の歴史、理科の実験は時を延期したりしながら実施してきました。講師の方々には勿論お世話になりましたし、参加者の方々にも助けられました。いて下さるだけで気持ちが安らぎました。

それと同時に、このたよりに「これからのことを」と題して鴨長明の「方丈記」を、わからないながらも2年以上にわたって書き進めてきました。

## 古典の持つ叡智

800年以上も前に書かれた「方丈記」です。以前にも書きましたが、堀田善衛の「方丈記私記」。1945年3月一夜で10万人が亡くなった東京大空襲を経験し、それを「私記」として書いたんですね。鴨長明の方丈記を読んで領くことがたくさんあったと言います。

東日本大震

災を経験された方、戦中戦後を生き抜いて来られた方々だって、この方丈記を手にとって、その時の状況に寄り添って

## 八幡まるごと館だより

2022年7月12日/151号

<発行>八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20  
(TEL&FAX) 075-983-3664(9時~17時)  
(E-MAIL) yawata@marugotokan.net  
ホームページは <http://marugotokan.net/>  
又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。

くれると。長く読み継がれた古典にはまるでその時その時のしんどさを耐えぬく力が備わっているのではないかと思える程です。それは叡智と読んでもいいのではないのでしょうか。

私はその所に惹かれました。

## 方丈記のこと

「方丈記」は40ページ程の古文ですが、現代語訳も参考にして。

作者の鴨長明(1155?~1216?)は実際に自分の目で見てきたことを前半に、後半は54歳になって移り住んだ日野の方丈庵での生活を記しています。

貴族の世から武家の世へと時代が変わってゆく保元の乱や源平の争乱が背景にある中での市井の人たちの生活は如何なるものだったのでしょうか。長明さんは五大災厄(大火、辻風、遷都、飢饉、大地震)で苦しみ悲しむ人々の姿をととても詳細に書き、一番最初の災害文学と言われます。鴨長明が23歳から31歳の間の出来事です。

本人は18歳頃、下賀茂神社の正禰宜惣官の父親が若くして亡くなり、とても気持ちが揺らいだんですが、そのことは方丈記に一切出てきません。

## 無常と言われる中で

「ゆく河のながれは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつむすびて、久しくとどまりたるためしなし。

世の中にある人と栖と、またかくのごとし」と方丈記は始まります。一般的にはこの世の無常を描いた作品とよく言われます。確かにそうでしょうが。

飢餓、感染症のところでは天候の不順だけでなく、打ち続く戦乱によって田畑は荒れはて秋になっても収穫物は全くない。道端で飢えて動けず倒れこんでしまう沢山の人々。苦しみや悲しみに身を任せるしかなかったんです。

長明さんは自分の足で歩き目で見て、方丈記に克明に書いたんですね。

「乞食、路のほとりに多く、憂へ悲しむ声、耳に満てり」と。



2009年10月25日第1回まるごと市

## 人と人の中で心の耳を

長明さんは本当は当時の権力者に対して凄いいらだちを持っていたと思うのですが、それを封印していました。

上の方丈記の一文から、黙して語らない、中には語れない、そんな人々の声を聞く心の耳を持てと。

目の前で苦しむ方々の存在が自分にとってどういう意味をもつのか、もしかするとそれは自分だったかもし



れないと思ってみたりします。

誰もが人と人のつながりの中でやっと生かされているんですね。私はまるごと館で多くの方々に助けていただいて今があると思っています。大切にしたいです。

### 現在に方丈記を生かす

長明さんが現在にいたら、戦争で苦しむ人や貧困でやっと生活している人のことをどう書くのでしょうか。このたよりに書き始めて、そう考えることが多くなりました。長明さんの視線は色々な所にも飛んでゆきます。そして、このコロナ

禍で不安だった私の方丈記を読んできて、ちょっと変わってきました。まわりが以前より少し見えて来たのかもしれませんが。

### 今年は秋のまるごと市を

まるごと市を再開してゆけたらと思っています。表ページに第1回のまるごと市の写真を載せています。前日からおでんの用意をしようと奮闘したことを思い出しました。懐かしいです。10月出展もお手伝いして下さるかたも大歓迎です。よろしくお願ひ致します。日程が決まり次第お知らせします。

### 八幡の歴史



**2日** 出口修さんは「八幡山案内絵図」を用意され、江戸時代の八幡宮と宿坊について話して下さいました。戦国武将として名前の知られた織田信長、豊臣秀吉、徳川家康等は八幡宮との関わりが深く、参拝も

しています。信長は「黄金の樋」や築地塀を奉納、秀吉は戦勝祈願を、家康は八幡神領を検地免除と守護不入として特別な所とし、社務家は4家を順番に回すこと(社務廻職状の発給)を決めました。

### 絵手紙講習会



**8日** 森本玲子さんは9月1日(木)から9月11日(日)までの文化センターミニギャラリー展示の話がされました。和紙にも絵を描くという課題もあり、それは7月13日(水)に提出ということです。悩みますね。絵を描く時間はいい時間ですが、決めるまでが中々です。



### オカリナひまわり



**27日** (写真の日) このコロナ禍では何度も中断しましたが、参加者が増えてきました。これからの状況によっては12月の初めにクリスマスコンサートができれば行うという方向で練習を始め

ました。7年間やってきて少しずつ上達してきました。新しい曲には1年間くらい練習をして獲得していきます。始めた頃を思い出すとレポートリーが随分増えました。楽しくやっています。

**八幡まるごと館 7月・8月の予定 休館 7月2日(土)、8月11日(木)午後 8月13日(土)~8月18日(木)**

<パソコン教室> 毎週月曜日 10時~12時です 7月4日(月)10時~12時パソコンを持って来て下さい。費用 300円(コーヒーつき)
<オカリナクラフ ひまわり> 楽しめる時に 7月4日(月)13時~ 参加費100円 全員参加ではありません 練習日は月曜日だけに
<絵手紙講習会> 9月1日(木)~9月11日(日)文化センターミニギャラリー展示 7月13日(水)午後1時30分~ 講師 森本玲子さん 参加費 400円(コーヒーつき) 次回は9月14日(水)です。
<楽しい理科の実験 N044紫外線チェッカー> 7月29日(金)13時30分~ 講師木下章司さん 参加費300円(コーヒーつき) 持ち物 なし 初めての方もどうぞ
<歴史を学ぶ 新八幡の歴史 N037> わかり次第連絡いたします 8月25日(木)13時30分~ 講師出口修さん 参加費100円 月1回です

### <あなごと・ごんごと>

\* まるごと館はオープンから13年経ちました。初めは館に入って来られる方は夫の支持者の方ばかりでした。それ以外ではほとんど誰も来ない館内でひとり鉛筆で絵を。又講座では、パソコン教室くらいで、ほとんどは夫の死後2013年以降からです。絵手紙も八幡の歴史もオカリナ、さをり織も。賑やかになったところに、今度はコロナ禍が。寂しかったですね。やっとなという所ですが、まだ時間がかかるのかもしれませんが。この13年間に沢山の方との別れを経験し、今正に高齢化に直面していますが、先に生きて来られた方から多く学べています。(うえたにじゅんこ)

\* この方丈記の「まとめ」は時々書きますね。「これからのことを」と題して21回も同じようなことを、ダラダラと書いてきましたが、何か私の中に残してくれたようです。

\* この2年余りに及ぶコロナ禍をはじめとして、今までに経験してこなかったようなことがまわりで起こって戸惑うことが多いです。どう考えたらいいのかと。10月には秋のまるごと市を、12月にはクリスマスコンサート(オカリナ)を、と思っていますが、これからの社会の様子をみないとわかりません。またよろしくお願ひします。